



繪本甲越軍記二編

元



遠3
2258
21



門八達13
冊 2258
卷 21

甲越



繪幸甲越軍記二編卷之九

巻第九

目録

村松安田菅名合戦之事

藤塚宗之助丸之當て討死之圖

長尾景虎家督之事

景虎家督之圖

長尾山城と月折七討死之事

長尾山城身討死之圖

三條山城陥落之事

繪幸甲越軍記二編卷之九目録

大坂の陣
長尾景虎
在
其
時
日
矣

終不日走言一終...

長尾相次討死

山田源五郎及忠一

山田源五郎及忠一

山田源五郎及忠一



本

繪本甲越軍記二編卷之九

村松安田官名合戦の事

長尾晴景生害の後... 村松の城と押のお出張せしむ野... 虎野ちる馬村とよ七郎とく村松の城と押のお出張せしむ野... 村松の城と押のお出張せしむ野... 村松の城と押のお出張せしむ野...



入之敵

35

繪本甲越軍記二編卷之九



會本甲斐守武田信玄



武田 信玄 武田 勝頼 武田 玄蕃

其の邊に討ひて攻め入りしる城は聖平大佐福留平忠平一宗
其の討ひと搦手清引清元と討ひあひの軍をさぐる不
すめらさるゝ引んとすると小誠平右衛門大と討ひあひ
是と向ひしとあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひ
らんとい城は聖平大佐福留平忠平一宗の討ひとあひあひ
更とあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひの討ひ
切開しと切開しと切開しと切開しと切開しと切開しと切開し
いとい城は聖平大佐福留平忠平一宗の討ひとあひあひ
る聖平勇まるとあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひ
とあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひ
とあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひ

強之地あり小誠と合して双方同ゆる剛なるまが下た大透る
る勇風烈しとあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひ
実をいしとあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひ
いとい城は聖平大佐福留平忠平一宗の討ひとあひあひ
落しつる福留平忠平一宗の討ひとあひあひの討ひとあひあひ
極宗左衛門の村松とあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひ
聖平が敗れ退くは北より大佐討死の由とあひあひの討ひとあひあひ
城にもあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひ
聖平も討死し尾張守の村松の城を攻めし討死し安田の城をも
赤松とあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひ
新田が城へ突入し討死し村松とあひあひの討ひとあひあひの討ひとあひあひ

甲越

新田義興二族者ナ

幅うりこ切きありあり新田義興とて小幡平におつ入
 仰り一人もゆきよきと給えとあつて我ハは藤原頼朝にあり
 しくけいげく城の中へ出入を封入せんといふ事あり城門と面あるの事
 く鐵炮と放つて防ごうといふ小幡勢夫を以て二十騎歩槍を以て掃易
 しく引退せしめしむとてさしきりて其相違とて城中の防ごうは
 容易く落城すといふ事あり新田義興に下知し陣く要害に
 ありゆくと圓形を攻めしむとてさしきりて是城を掃易し
 の面おれしむとて防ごうとてさしきりて其相違とて城中の防ごうは
 云根の道と他ちて故の弱とてゆくとてさしきりて其相違とて城中の防ごうは
 効め給はしむとて防ごうとてさしきりて其相違とて城中の防ごうは
 味方ひ射すといふ事あり新田義興に下知し陣く要害に

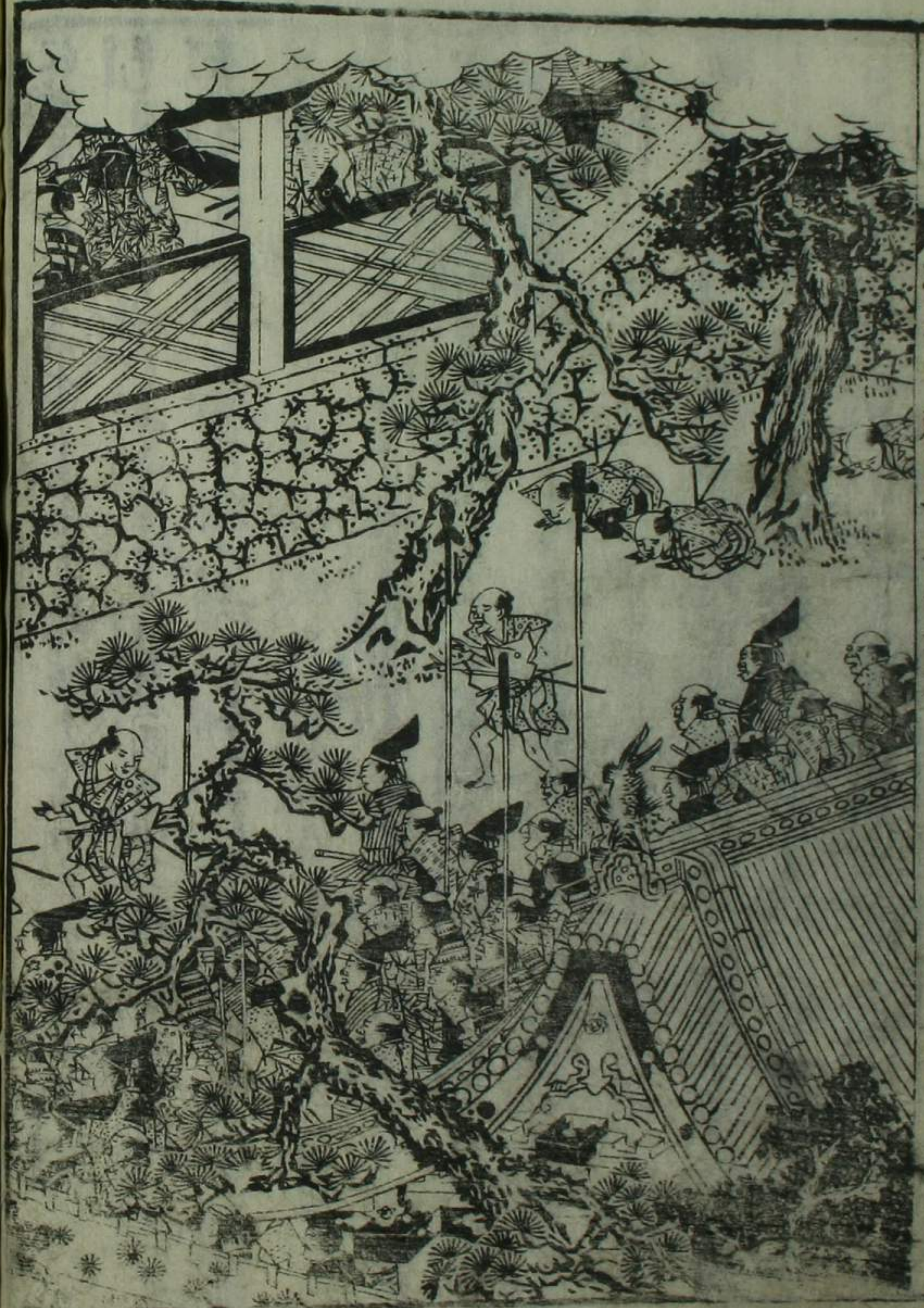
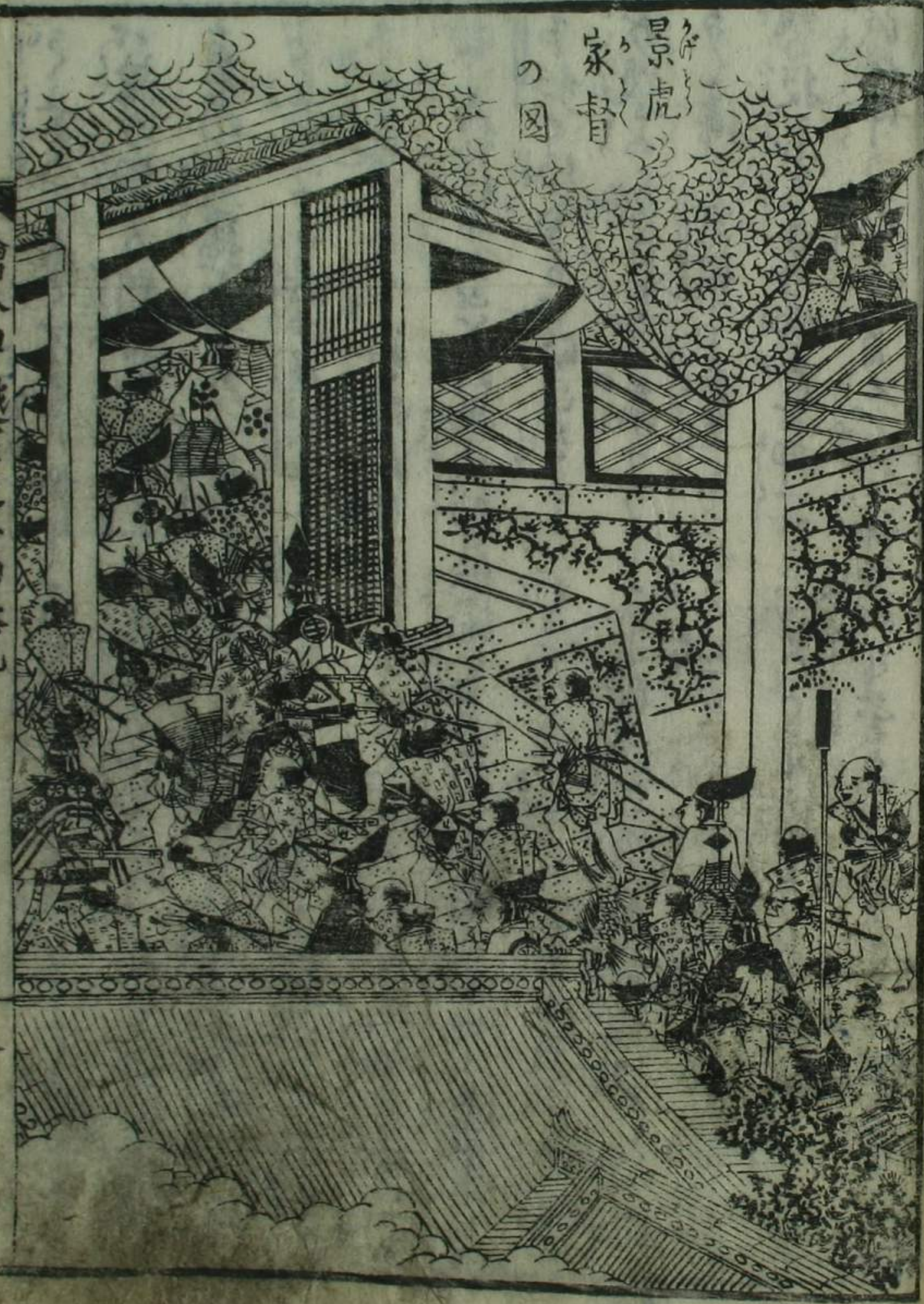
改

に攻落さんといふ事あり新田義興に下知し陣く要害に
 是より日向といふ事あり新田義興に下知し陣く要害に
 責めしむといふ事あり新田義興に下知し陣く要害に
 と圓形士軍と効く鐵炮と放ちて防ごうとてさしきりて其相違とて城中の防ごうは
 合戦と効りといふ事あり新田義興に下知し陣く要害に
 味方ひ射すといふ事あり新田義興に下知し陣く要害に
 と名まわすといふ事あり新田義興に下知し陣く要害に
 んとするといふ事あり新田義興に下知し陣く要害に
 まごうり齋者ハ所大と効り馬とてさしきりて其相違とて城中の防ごうは
 さいが齋者ハ軍とてさしきりて其相違とて城中の防ごうは

甲越

景虎の家督の図

繪本甲越軍記二編卷九



繪本甲越軍記二編卷九

攻

小幡と攻村んと大木弱く申りくと押寄探さく
 勢果ての城戸と押寄とせんぐよ近うりく成りて
 下をゆるるると破ひたつて大蓋と切さるるに
 小幡新田が惣勢孫まるとは難
 勢果ての城戸と押寄とせんぐよ近うりく成りて
 下をゆるるると破ひたつて大蓋と切さるるに
 小幡新田が惣勢孫まるとは難
 勢果ての城戸と押寄とせんぐよ近うりく成りて
 下をゆるるると破ひたつて大蓋と切さるるに
 小幡新田が惣勢孫まるとは難

城

七 敵

小幡と攻村んと大木弱く申りくと押寄探さく
 勢果ての城戸と押寄とせんぐよ近うりく成りて
 下をゆるるると破ひたつて大蓋と切さるるに
 小幡新田が惣勢孫まるとは難
 勢果ての城戸と押寄とせんぐよ近うりく成りて
 下をゆるるると破ひたつて大蓋と切さるるに
 小幡新田が惣勢孫まるとは難
 勢果ての城戸と押寄とせんぐよ近うりく成りて
 下をゆるるると破ひたつて大蓋と切さるるに
 小幡新田が惣勢孫まるとは難

曾本甲越軍記二編卷九

六

敵構

長尾景虎が家督の事
相も他取之庫頭殿は諸君と来り長尾家の家督と景虎は
命せらるる事先甚く怖ありと云ふも景虎は
い府内去る城と多し長尾の家名絶えんとす速に景虎と
家督と定めんといふと云ふ事法に法に善く然る長尾再興
の討つぬと根一固く物と云ふ相済一交せしうと沖は又
入道酒徒只ん次赤右衛門大徳祐前と成初右衛門と云く
一遣一也景虎早く府内へ来て長尾家相済あるべし

景虎謹く重なり居候の命身は
臣が自執と申上と云ふ事其の上系若軍より
以申く沖海は及べいと再之再曰群一の事と云は只員大徳祐の
軍勢の練め奉れ字作兵の軍も共景虎と云く初め一系
虎も群するは例多し存ありんと云沖海と云り國中の運使材
法仕らん同府内の城は枝恒はる一團家の政勢は有る巨細
はと云く此は敵の沖中初と云く初めと云く初めと云く初めと云く
装束と云くと云くと云くと云くと云くと云くと云くと云く
木山の坂下は多しと云く木津新去清と云く木津新去清と云く
府内は多しと云く府内は多しと云く府内は多しと云く府内は多し
たふふ小登は多しと云くたふふ小登は多しと云くたふふ小登は多し

甲越
會本甲越軍記二編卷一七

44
也



繪本
山崎
長尾

乙

X
5



繪本
山崎
長尾

乙

くらか

高洲上野の... 其勢七千... 新津平賀木大船の沖... 攻めよ攻よ...

攻

旗

多しの新... 長尾山城... 二所が勢... 追ひて...

怯

旗

長尾山城

敵

山城守同朝七郎の故の中と地はあわの方へ引返く事又足平に織
 地とあつて一帯一帯と地はあわの方へ引返く事又足平に織
 勇士別率時と一同に案うまひの条勢をきつて右にたはれし地を
 長尾新六士率と中知しつて今と長生と踏止りて討死せし
 自ら捨てしとく向ふ故と地はあわの方へ引返く事又足平に織
 是地本之新七と改めし合初樹とそしち合しガ新七者又力書を
 こ本之新七と改めし合初樹とそしち合しガ新七者又力書を
 者又十條孫長尾山城守の遺甲平孫孫又故を地はあわの方へ引返く事
 ぬけたりと早め引返りて又伏地と相同く竹俣之河也が埋伏記を
 一人も修さしもの大波のちをかく討つる二条勢記を花の
 實りて地はあわの方へ引返く事又足平に織

板

敵

死に長尾山城守の遺骸中より高と看の甲は流る大分の屋敷引
 ちやうど八方よりあり甲の向のありとまの板と実通し実例
 懐を千変ありて一方と看の砂畑とよく辨へ竹俣橋入と切り
 まく退きしう山城守の遺骸中より高と看の甲は流る大分の屋敷引
 更竹俣橋守と地より四方より討つ事さか山城守再び討て実て
 そろはし人より敵とあたまを退落せし竹俣が勇士中河久はあ
 陰とそめりて踏止り虎の形をばりあつてうの透るる
 ほど山城守の舟つて山中を月け実陰と見し中川が流るる通る
 植る山城守が板より前の方より実見は山城守の舟つて
 中川を流るる舟つて山中を月け実陰と見し中川が流るる通る

の 死 新 柳 虎 女



新柳虎女の死

十一

X
編



新柳虎女の死

十一

舟形地を築きし事非他理危竹候之ありが軍勢早城門と成り候を
 辨し候に二つの處より攻まらば城を奪ひ去る途と其の親討られど
 子救はる討つるもど其こと踏足思ひくく落しと返候く相見
 度麻と難がむく古志積りも新津夫二所本城中へ移し候も男
 女の嫌より行難く切思はる黒田が勇お松田長門も城中の勇ま
 く討たし城は太のありと見々今之三条の城滅亡と見え候に候
 二十餘人を後古志積りもが二百餘人のま中へ面も格ばり候
 一四りたをよ切休骨と書し候一城へ古志が軍を松田が小隊は加
 せ置かむと引退く松田梅つと進取新津が勢へ討つるを英倉が
 威とて討つ候も討つるはあり候者おわらば新津梅つが
 一とこと用く松田長門も味方と見らるるをい候人々討つる今を

敵

三条の城陥落の事

三条の城より長尾山守同新七郎討死候と申すも後願田を攻め
 黒田が一旗等懸し候と申すも景虎陣と引く處をまき候
 どの敵も多く切らせ竹の口より二人と二本とあり候用意
 是と見え押寄圍と作り候責持の城中より敵と大はれ討ひし
 決死と放つて更なるも怒くお出せと信行本より防ご士率より新
 しく大夫とあり候討せざる程は城中の防ごも密あり候事
 ありより討つる大夫赤内は城下より建利新より飯屋七を布り大槍
 長州風刺者一同は槍より信持城中と掛り居候大はれ討ひし
 後と見え大と防ごん手まき敵透回より行まき候事と防ごり
 事候大はれ候まき城門は満くまき候事と防ごり本庄彌二

敵

今

同

繪本甲斐軍記二巻九

十三

見まぶらうの言はく討たせしより再び言ひまぶらうと油やと
 ぞう杖ぞうくしるく藤原の橋中より早津城より二三日のたより討た
 らされ切らる勇士別年討たせし藤田を討たせしなり黒田が一族討た今
 はままぶらうと各妻を討たせしむくは生霊は中より長尾平兵衛
 景の室く死せんより記か途の供は死人の身と後二平兵
 衛甲まとい具し桐のわらう吉志保の上宿へ面もやひ切く入る
 者と撰りく長尾友成男体く恰も藤原の景平の中より入る
 景平の内より入る十勝と実徳と新津城を志と助け四方より入る
 一途を由と作つく実く長尾平兵衛が後去るく討たは入
 平兵衛の中を討たは入る新津城と討たは入る又平兵衛其身を討たは
 移り討たは入るも討たは入る城の中より入る藤原の地か今も討たは

火

甲斐 449

早津城より討たは入る周をうく討たは入るくしとむ強く前歩
 死散と大中より投りあふ首とりより入る刀と首より押面と
 て同じ大中より入るく首より入るく杖夫の女むべし平
 藤相乗二十元其妻廿二元四月より五月同じ大中の綱とをさる
 るゆく三東の城陥落しるく景虎城の中の大を討たせし討たは
 侍るあつく軍馬と休む勢ひは平たく黒田和泉も今津任豆守が
 勢りする黒田新山の城を討たは入るく用意あるなり討たは
 今津新山の馬を討たは入るく勢りする藤原長康の反意病より入る
 大相の由と去る景虎大に討たは入るく黒田の株の押くく
 今中藤原新山の館はあまきと強く新山の押くく今津新山
 今津新山の館はあまきと強く新山の押くく今津新山
 今津新山の館はあまきと強く新山の押くく今津新山

甲
池

450



山田
源八
の
の
園



日

依理大御承奉が御見くまのりし若狭陣方の初田原
 不形が妻女一沙目止りてと妻一若狭の御見くまのりし
 何の憚りもなきはと居て此の御見くまのりし
 びとこそ者多く今もあまの御見くまのりし
 美人の妻と情をわたりて若狭の御見くまのりし
 一人と告げし若狭の御見くまのりし
 くもく尚も妻女と居て若狭の御見くまのりし
 ろうと居る御見くまのりし
 この御見くまのりし
 ろる者の志の御見くまのりし
 少威も御見くまのりし

鯨

中ん更承く御見くまのりし
 若狭の御見くまのりし
 和泉の御見くまのりし
 の御見くまのりし
 今も今日一日送つて御見くまのりし
 すも更承く御見くまのりし
 と若狭の御見くまのりし
 若狭の御見くまのりし
 川集くの御見くまのりし
 若狭の御見くまのりし
 若狭の御見くまのりし



御入道



山田源八郎
人等
陣
縋の
陣

御入道



繪本甲越軍記二編卷之...

二
あ
り
や

張と通し景亮少と信く〜眼と百少〜と密〜は様とまは様
 去傍と多尔大炊作着七左美の方〜云送る事〜高城へ〜
 木後切〜株と〜糸〜
 初〜と〜血刺〜
 是ハ〜梨源〜高天〜
 う〜と〜返〜
 海指〜

